令 和 ４ 年 ４ 月 ８ 日
日本原子力研究開発機構
核燃料サイクル工学研究所

令和３年度 核燃料サイクル工学研究所防災訓練における課題対応について

１．はじめに

令和４年２月２２日に実施した訓練の結果を踏まえ、課題を抽出し、対策の検討を行った。
検討結果の概要は以下のとおり。

【抽出した課題等】

No	抽出した課題	区分	対策
1	即応センターからの問いかけに対し、速やかに災害対策資料を用いて回答できなかった。	ERC 対応	・ERC 対応ブースでの役割分担や連携方法を明確にし、ルール化。 ・災害対策資料の具体的な内容や使用方法を教育。 ・災害対策資料の検索機能の改善。
2	災害対策資料を有効活用できていない。	災害対策資料の運用	ERC 対応ブース要員向けに災害対策資料の活用に係る勉強会を実施。
―	その他	―	―

２．検討

＜No.１＞

【問題点】

緊急時対策所の ERC 対応ブースは、ERC からの質問への回答を即応センターの ERC 担当者から求められたが、回答することが出来なかった。

【課題】

緊急時対策所の ERC 対応ブースは、ERC と即応センターのやり取りを把握し、災害対策資料を用いて説明することができなかった。

【原因】

① ERC 対応ブースにおいて、ERC 対応者間で役割分担を含めた連携の仕方を明確にしていなかったことから、現場からの補助者が ERC と即応センターのやり取りの把握に注力せず、ERC と即応センターのやり取りを把握できなかった。

② ERC 対応者は、災害対策資料の内容を十分に把握していなかったため、必要な資料を速やかに検索することができなかった。

③ 災害対策資料の検索に必要な目次等が不足していたため、必要な資料を速やかに検索することができなかった。

【対策】

① ERC 対応ブースでの役割分担や連携方法について明確にし、ルール化する。

② ERC 対応ブース対応者に対し、災害対策資料の具体的な内容や使用方法を教育する。

③ 災害対策資料は、詳細目次やインデックスを付けるなどにより、該当資料を見つけ易くする工

夫をする。

＜No.2＞

【問題点】

・即応センターからERCへの情報共有に関して、事象が発生した初動時において災害対策資料中の「事象進展対策シート」を用いてどのような戦略が考えられるか積極的に説明できなかった。また、SE/GE02の判断基準値が災害対策資料中に記載されているにもかかわらず即座に説明できなかった。

【課題】

・災害対策資料を有効活用できていない。

【原因】

・機構対策本部のERC対応ブース要員が災害対策資料の内容を十分理解できていなかった。また、どのような局面でどの資料を用いて説明するかイメージできていなかった。

【対策】

・機構対策本部のERC対応ブース要員向けに災害対策資料の活用に係る勉強会を定期的に開催し、災害対策資料の内容や資料を用いてERCへ説明するタイミングについて理解を深める。

３．「その他」に関する対策

（核燃料サイクル工学研究所）

No.	課題区分	課題	原因	対策
1	情報共有	再処理施設の現場指揮所において、緊急時対策所へ共有すべき情報をスムーズに共有できない場面があった。	現場指揮所内で共有すればよい情報と緊急時対策所へ共有すべき情報を迅速に整理できなかった。	今後の訓練を通じて、各階層での習熟度を高めていく。
2	通信設備	再処理施設の現場指揮所において、時折、書画装置の緊急時対策所への切替え操作を間違えていた。	書画装置で説明する要員が別の要員へ指示して書画装置を切り替えていた。	書画装置で説明する要員が自ら書画装置の切替えが行えるように機材の配置等を検討する。
3	情報共有	CPF の応急措置対策の説明において、排気第１系統全体を閉止すると思わせる説明があり、情報が正確に伝わっていなかった。	・現場からの説明において、排気第１系統(フィルタユニットNo.1～6)のうち、どのフィルタユニットかを示す「No.1」のキーワードが抜けていた。 ・現地対策本部からフィルタユニットのバルブ閉止による影響の観点で質問できなかった。	異常発生箇所や応急処置の内容は、該当箇所を特定できるように正確に TV 会議で説明することを教育するとともに、訓練での習熟を図っていく。

4	情報共有	ERC への FAX 通報文が 2 通ずつ送信された。	複数の FAX 送信先（03-3560-9717、03-5114-2197）を設定して FAX 送信していた。	訓練用の FAX 送信先(03-3560-9717)のみへ送付するよう周知し、FAX 機近傍に掲示する訓練用送付先の表示を修正する。
5	情報共有	地震発生直後における施設の運転状況や火災、けが人、施設の異常等の有無について、適切な情報共有が出来なかった。	初動時の刻々と状況が変わる中で、ホットライン（個人）からの情報のみで情報集約したため、古い情報や適切でない情報がそのまま発信された。	初動時に確認する施設の運転状況や火災、けが人、施設の異常等の有無については、ホットラインだけでなく、TV 会議からの情報も併せて集約し、最新の情報を正確に伝達できるようにする。
6	情報共有	プール水の漏えい量と補給量の関係について、回答が遅かった。	プール水の漏えい量と補給量の関係は、応急処置対策（戦略）の適切性を判断するうえで重要な情報であり、積極的に発信すべきとの認識が低かったことが原因と考える。	・応急処置対策（戦略）の適切性を判断するうえで重要な情報は、現場は積極的に発信すること、現地対策本部及び機構対策本部は積極的に確認することを教育し、訓練での習熟を図る。 ・災害対策資料に漏えい量、補給量を記載できるよう見直す。
7	情報共有	地震点検結果について、通報文に添付して発信するタイミングが遅かった。	地震点検結果について、情報共有の仕組みが明確でなかったため、通報文作成者への情報共有が遅れた。	地震点検結果の情報共有の仕組みを明確にして教育を行うとともに、ルール化する。
8	情報共有	SE02/GE02、SE30 に係る ERC への 10 条通報の FAX 送付が遅れた。	・通常の FAX 機の送信能力を超えた場合の代替の送信手段を定めていなかった。	代替の送信手段として、統合原子力防災 NW の FAX 機で送信する。

（機構本部）

No.	課題区分	課題	原因	対策
1	即応ｾﾝﾀｰ運営	即応センターからリエゾンへ定期的に送付する資料に 1 度だけ抜けがあった。	担当者は「リエゾンへの資料送付」と「緊急時対策室のモニタで共有する図面等の選択」という２の作業を実施しており、負荷がかかった場面で一方の対応に漏れが生じてしまった。	補助者のダブルチェックによりリエゾンへの資料送付を確実に実施する。 なお、リエゾンへの資料送付と緊急時対策室内モニタに表示する図面等の選択という作業について担当者を分けることについて今後の検討とする。

2	即応センター運営	「事象進展対策シート」をリエゾン経由で ERC へ配布できなかった場面があった。	発話者が ERC へ説明した資料については、書画装置で説明した際に画面コピーを実施しデータ化してリエゾンへ送付する運用であったが、発話者が画面コピーする前に資料を切り替えてしまった。	ERC へ説明した資料については必ず画面コピーした後で切り替えることを再度担当者へ教育する。 必要に応じて再度書画装置で投影し画面コピーを行うこととする。

以上